

大草谷津田生きものの里 自然観察会

冬越しするムシたち

山下美佐子（東金市）

日 時：2019 年 12 月 1 日（日） 10 時 30 分～12 時 天気：曇り

参加者：19 名（大人 11 名、子ども 8 名）指導員：5 名

担当指導員：田島正子 山下美佐子

今にも雨が降りそうなお天気の中、「冬越しするムシたち」観察会が実施された。お天気がよくない割には、初めての家族や常連参加の方達などムシ好きの親子たちが集まり、観察会は賑わった。初めて参加の方達に大草観察会の約束を話し、カマキリ 4 種類の卵のう写真を見てもらい、「どんな所にあるかな？ 探してみよう」と声をかけて始めた。

植栽の葉に隠れるようにオオカマキリの卵のうが見つかった。卵のうをやさしく触ってもらい、この卵のうは中に卵が 200 個ほどもあり冬の寒さから卵を守る仕組みになっていると話す。次に木の名札をめくってみる。たくさんのダンゴムシが集まって観られた。「ここだと温かいんだね」と参加者。大きなヤツデの葉裏をめくるとトゲトゲのトホシテントウの幼虫を発見。触ってもらったら「痛くないよ」、「眼はどこかな？」などなど、トホシテントウ幼虫で参加者は盛り上がった。

谷津田では、ヤツデの雌花の蜜を舐めにクロスズメバチやハエなどが元気に飛んでいるのを観察。木の洞の中を懐中電灯で照らして、ヘラクヌギカメムシの卵のうを虫眼鏡で観た。ヘラクヌギカメムシの親が「鳥に食べられない場所を選んで卵を産んだんだね」と参加の子どもの声。このカメムシは 2 月の寒い時期に孵化し、もう死んでいない親が用意した卵の周りのゼリーを始めて食べることを話す。水切り桶の上で枯草の塊をふるって、下に落ちた虫たちをみんなで観た。トビムシやクモ、ヨコエビ、ケムシ、ハムシなどがひしめいている。みんな「オーッ」と驚きの声。枯草の山は小さな虫達の大切な越冬場所であることに気がついたようだ。

次は南向きの風が当たらないコンクリート堀へと移動した。ここはたくさんの虫が毎冬 越冬している。参加者の皆さんにプラカップを渡し、それぞれ虫を探して入れてもらった。コバネイナゴ、ナナホシテントウ、クモ、ダンゴムシ、カナヘビ等、たくさんの虫が見つかった。子ども達は大喜びで次々に捕まえて、「甲虫」「カメムシ」「バッタ、コオロギ」「クモ」「その他」と書いた紙に大人と相談し置いていった。まだまだ捕まえたいようだったが、絵本「冬の



虫に会いたくて」を読み始めると、みんな目を輝かせて静かに絵本に夢中。「とても楽しかった」「冬なのにこんなに虫がいるとは驚いた」等の感想をいただき、観察会を終えた。